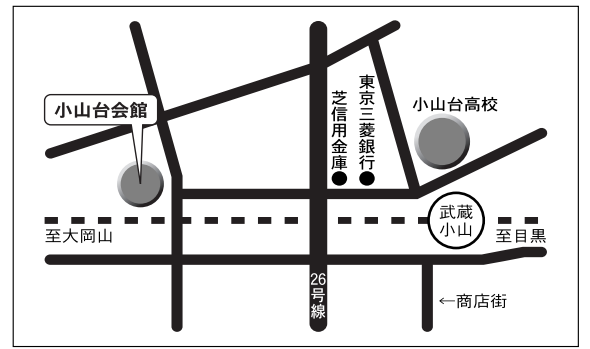




コミュニケーション力を高めよう



財団法人小山台
理事長
福川 伸次

或る国際会議に出席した折、休憩時間に出席者の間で「国際会議での名議長」というのは、どういう条件を備えている者をいうかに話が及んだ。「聞き上手」とか、「説得力豊か」とか、いろいろな意見が出たが、結局「日本人の口を開かせて、インド人の口を閉

じさせることができる人」という笑話で、その場はお開きになった。

最近では、大分改善されたが、ひところは国際会議に出席する日本人に対して、外国のジャーナリズムは「スリーS」と評した。それは、「スリーピング」、「サイレント」そして「スマイリング」というわけである。

日本人は、確かにコミュニケーション力に劣っている。先ず、日本語に「コミュニケー

ション」にふさわしい日本語がない。「情報伝達」とか、「意思疎通」とかいっても、コミュニケーションの意味を十分に表してはいない。

コミュニケーションとは、1つには「意思および情報の伝達」であり、2つには「相互理解」であり、3つには「共感の形成」を意味する。確かに、そのような日本語は見当たらない。その位、日本ではコミュニケーションを軽視してきたのかも知れない。

確かに、日本では口に出して論理的に説明し、相手を納得させるということは得意でない。「目は口ほどにものをいい」というし、「沈黙は金」ともいう。黙っていることが美德なのかも知れない。「きじも鳴かずば撃たれまい」というように、自衛上、黙っている方が得だというわけである。

我々は、学校でもコミュニケーションの能力を高めるような教育を受けたことがない。米国などでは、ディベート能力を高めるために、2手に分かれて議論を闘わせる授業があ

るし、発表方法についての指導も行われているという。

日本社会は、本来、同質的な社会である。殆どの人が同じような考え方をもち、同じような生活習慣をもっている。従って、黙っていても大体解り合ってしまうのであろう。また、理詰で議論すると、その成否がその要件に止まらず、相手の人格の評価にまで及んでしまう。従って、政治でも徹底的に議論して、最後は多数決で決めるということのできるだけ避けて、「足して2で割る」解決方法をとってしまう。

しかし、グローバル化の時代になると、そんなことをいっておられない。企業でも外国人と通引をし、外国人を雇用し、外国人に仕えるとなると、自分の意思をきちんといえないと仕事にならない。まして、日本も国連の常任理事国になろうというのなら、ただ裏での根回しばかりでなく、堂々と論陣を張らなければならない。

財団小山台は国際交流事業に力をいれているが、果たして、真のコミュニケーション力の育成に役立っているかどうか。語学は、コミュニケーション力の1部に過ぎないのである。

同窓会が担い手 「小山台」の強みを考える



財団法人小山台
監事
小島 章伸

私たちの母校は1昨年、東京府立八中創立以来の80周年を祝い、今年は定時制発足70周年を迎えた。小山台高校の歴史の重みを改めて感じるが、財団「小山台」のユニークさや強みもこの母校の同窓会が担い手となっていてところにある。改革の時代の大事な節目に

立っているいま、もう一度「小山台」の原点を考えてみたい。

【同窓会が主役】

6月19日の日曜日、小山台会館での偲櫻会主催「母校の70周年を祝う会」にお招きを受けた。参加者120名を超え、大変盛会であったが、たまたま私にも祝辞のご指名があったので、ひと言、次のように述べた。「率直にいうと私の意識の中には菊桜会とか偲櫻会というような区分けはありません。同じ学舎で学んだ同窓会という気持ちが圧倒的に強いのです」。

それはここ10年余財団活動にかかわり、菊

桜会や偲櫻会の皆さんと共に歩んだ縁（えにし）と友情によるごく自然な気持ちである。財団の中で出身母体を意識して話し合うことなど全くない。

正直なところ、財団が土地売却の資金62億円を基本財産として新たなスタートを切ったころは、財団運営の道筋も固まらず、執行部内の足並みも揃わずに不安要素が少なからずあった。当時の谷事務局長のご苦勞も多かったに違いないが、それを乗り切って今日の発展につながったのは、やはり“母校愛”が結ぶ同窓会の強い絆によるものといえるだろう。

公益法人もいろいろ。政府関係や企業、個人資産家等によって設立されたもの数多だが、「小山台」は天下りなど全く無縁の同窓会が主役のまことにユニークな存在である。

【ボランティア精神】

私に関係する公益法人の多くは強力な事務局を持ち、事業計画の原案作り、収支予算の策定など運営の主体となっている。もちろん「小山台」も岸本事務局長以下、少数精鋭の事務局が頑張っているが、人員体制は必要最少限である。

財団の運営はあくまでも菊桜会、偲櫻会、小山台高校、同PTAなどが参加する委員会活動

が中心。週日の夜、あるいは週末に忙しい仕事の合間をやり繰りして、純粋なボランティア精神の発露による献身的な活動を行っている。私も当初は評議員として経理委員会に加わり、その後監事として運営委員会に陪席しているが、福川伸次理事長はじめ役員・委員の皆さんの真摯な討議は感動的でさえある。同窓会を中心としたこのボランティア精神こそが「小山台」発展の原動力といってよい。

【新しい時代へ】

昨年の財団会報で私は、財団法人「小山台」の原点に立ち、新時代に向かって新しい発想で財団活動の見直しと、将来ビジョン作りを訴えた。それから1年、福川理事長の強いリーダーシップの下、財団は着実に前進を続けている。「将来ビジョンを考えるプロジェクト委員会」（山岡康行委員長）が、財団の事業、組織、将来望ましい姿等について精力的な検討を続けており心強い限りだ。

財団としての公益性を重視しつつ、母校への現実的な支援をどう展開するかは常に古くて新しい問題だが、幸い財団副理事長であり、小山台高校校長の高橋ヨシ子先生が、財団に深い理解を寄せられているだけに、大いに勇気付けられている。

もう一つ嬉しいことは、このビジョン作りに若い世代が積極的に参加し始めていること。本格的な世代交代のときがきている。“公明正大、言心一致”の校訓を受け継ぎ、明日の財団の担い手として、また真の改革の推進者として若い力を存分に発揮してもらいたいものである。

平成17年度 国際交流事業

リーダーとして

第13回英国語学研修派遣リーダー 長田 あゆ香



今回の英国派遣に参加するにあたって、私達は危機管理・自己管理という事を改めて確認しなくてはならない。高校2年生の時ボーンマスへ行った時の事を思い出してみると、楽しい気持ちと同時にホームステイに対する不安な気持ちもあった。英語でコミュニケーションすること、3週間も海外で生活すること等、当時は少なからず心配していた。だが今回はさらに、7月に英国で連続して起きたテロへの不安が加わってしまった。今回、私は一度同じ場所へ行った事のある者として、そういった皆の心配が1つでも少なくなるよう努めたいと思った。

海外へ行く時は、楽しい気持ちになると同時に危機意識がうすれる場合がある。そのために財布をなくしてしまったりする人もよくいるようである。しかし、今回はテロがあり、皆自己管理する意識が逆に高まったと思う。自分の行いに責任をもつ事は、今後高校生や大学生が社会に出るにあたって大切な事だと思う。今回の派遣でそれが身につけばよいと思う。

厳しい内容になってしまったが、私がリーダーとして最後に言いたい事は、不安な気持ちもあるが、何事も恐れず冷静に判断し、なにより日本ではないUKという国での3週間をかけがえのない経験にしたいという事である。

ブリッドポートに行くにあたって

第4回英国交換(ブリッドポート)派遣リーダー 鈴木 貴子



ロンドンでの同時多発テロの影響を受け、結団式を行えぬまま出発するという異例の事態になりました。ロンドンでの自主研修やミュージカル鑑賞も中止です。そのため、この派遣での楽しみの一つが無くなってしまい残念に感じている団員も多数います。しかし、その分、ホームステイの期間が延長となったので、パートナーやブリッドポートの人達と長い期間一緒にいられるようになったと前向きに捉え、与えられた機会を団員全員で有意義に過ごしていきたいと思っています。これまで研修で派遣までに何をどうしようか、派遣先でどのように過ごそうか目標を立ててきました。私は団員一人ひとりが自分の目標を達成し、イギリスで自分なりの『何か』を掴めるようにお手伝いしたいと思います。ブリッドポート団はややおとなしい感じの団員達なので、イギリスで臆することなく自分の気持ちが言えるように、その場に合ったアドバイスをしながら見守っていききたいと思います。

私は高校2年生の時に団員として派遣に参加しました。ボーンマスでたくさんの方に出会い、様々な経験をして「世界って何て広いだろう!」と感じ、一気に視野が開けるという素晴らしい体験をしました。以来、国際交流に強く興味を持ち、財団に通い続け毎年夏の受け入れに関わってきました。ブリッドポートの人達にも3年前そして昨年、日本で会っています。今年はブリッドポートで私の成長した姿をみんなに見せてきたいと思っています。

海外派遣生に期待すること

第2回英国交換(ミドルズブロウ)派遣リーダー 橋爪 淳吾



一昨年度の4月。私は1年間の留学のためにドイツへ渡った。当時は中東での戦争の真っ只中であり飛行機での移動にかなりの恐怖を覚えた。その戦争が起因して今回、私たちの派遣までもが大幅な予定変更を余儀なくされるとは想像だにできなかった。

私が初めて渡英した6年前の夏、海外渡航の危険回避は到着後の己の行動にかかっていたが米同時多発テロ以降の国際情勢は私たちに「制限」という名の護身術をも要求している気がする。私たち若年層はそういった現実と直面している一方で、将来のビジョンには「グローバリズム」という言葉を組み込まねばならなくなっている。

この2つの現実と直面している今日、派遣団員がせねばならないことは国際情勢に惑わされず、英国人をはじめとする外国人と「個人対個人」の付き合いに徹することであろう。留学中、中国人の留学生としての会話を思い出す。

「人と人との付き合いである以上、必ずしも全員と仲良くはなれないが、嫌いな人を作らない努力を怠ってはならない。なぜなら、その人を嫌いになることはその人の国を嫌いになることと直結しかねないからだ」

様々な不安要素が残る今回の派遣であるが、異文化交流の原点に目を向けること。個人の友情は将来を考える上で必ずや明るい光を燈す材料になる。『危機を回避しながら与えられた条件の中での国際交流』。派遣生にはそれをテーマに英国での3週間を過ごしてほしいと願う。



ボーンマス語学研修



ブリッドポート交換留学



ミドルズブロウ交換留学

平成17年度 公開文化講座のご案内

平成17年度は公開文化講座は9回計画しました。既に実施済のもの、締切ったものもありますが、下記の内⑥～⑨は現在も募集中です。往復はがきでの申し込みとなりますが、詳細は財団にお問い合わせください。

*既に実施済、締切済のもの

- ①海外旅行のすすめ ―ベトナム観光事情など―……………講師 手島 廉幸
- ②思春期の子を持つ父母へ……………講師 高橋 良臣
- ③お似合いの色は?……………講師 青木 みどり
- ④歴史散歩(1) 四谷北寺町から富久町・余丁町……………講師 手島 宗太郎
- 「文学散歩」
- ⑤歴史散歩(2) 八丁堀界隈「歴史上おなじみの人物」……………講師 手島 宗太郎

*現在募集中のもの

- ⑥11月12日[土] 14:00 飛行機よもやま話……………講師 山田 隆三
- ⑦11月26日[土] 14:00 レクチャー コンサート ―オーボエ―……………出演者 荒 絵理子
- 講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造
- ⑧1月28日[土] 14:00 モーツァルトのオペラの世界 ―ビデオと共演―……………講師 猿渡 伶二
- 「フィガロの結婚ほか」
- ⑨2月25日[土] 14:00 レクチャー コンサート ―琵琶・笛―……………出演者 首藤 久美子
- 講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造

ドイツとの交流事業

第6回カニジウス校からの交換受入

ベルリンのカニジウス校と財団小山台との相互交流は12年目となる。派遣された生徒の家庭が、ホームステイでお世話になった家庭の生徒を翌年受入れるもので、今年は受入の年であった。今年は生徒10名、日本語学科の梅津先生と濱田さんの合計12名であったが、その内容の概要を報告する。

- *7月21日
朝、成田空港着、財団から松本次長と学生2名が出迎え、昼過ぎに財団到着。簡単なオリエンテーションを行った後、出迎えのファミリーに連れられて、各ホームステイ先に向かった。
- *7月22日
夕刻から財団で、ファミリーのお母様達の手作りの料理によるウエルカムパーティーが行われた。小山台高校の高橋校長他関係者も多数出席して歓迎した。
- *7月23日・24日
ファミリーデーとして交流を深めた。
- *7月25日
これから4日間関西・広島方面の見学に出かけた。この日は新幹線で京都に行き、奈良友の会の皆様のご協力による案内で、金閣寺・龍安寺・二条城等を見学した後、近鉄特急で奈良に向かい奈良のホテルで宿泊した。
- *7月26日
法隆寺・東大寺を見学した後、墨工房を訪問し墨

- 作りを体験し、各自の名前を漢字やカタカナで書いて楽しんだ。その後近鉄特急で京都へ戻り、京都のホテルで宿泊した。
- *7月27日
広島に向かい、宮島・厳島神社等を見学し、夕食は広島のお好み焼を楽しんだ後、広島のホテルで宿泊した。
- *7月28日
平和記念資料館・平和公園・原爆ドームを見学した後、新幹線で夕刻品川に到着した。
- *7月29日・30日・31日
ファミリーデーとして交流を深めた。
- *8月1日
海外派遣生経験者で組織するランチの企画によるランチデーで、地元の町会の皆さんの協力も得て、小山台会館で日本の夏祭りを行った。屋台、魚釣り、輪投げ、かき氷、子供お囃子隊、盆踊り等で1日を楽しんだ。
- *8月2日
小山台デーで午前中小山台高校を訪問して、小山台高校生が、茶道、柔道、弦楽その他の班が中心となって歓迎し、午後は財団で日本の伝統工芸品作り等で楽しい1日を過ごした。
- *8月3日
ファミリーデーとして交流を深めた。
- *8月4日

- 2日間バスで日光見学に出発した。戦場ヶ原、小田代原、竜頭滝、華厳滝の見学、日光彫りの体験をして、日光市交流促進センターに宿泊した。
- *8月5日
三仏堂、東照宮、二荒山神社、大獣院等を見学して夕刻帰京した。
- *8月6日・8月7日
ファミリーデーとして交流を深めた。
- *8月8日
午後、日独生徒による評価・反省会を行った。おおむね満足との評価を得たが、反省すべき点もあるので、今後の受入の改善に生かしたい。
- 夕刻は財団のホールで日独生徒、ファミリー、関係者多数によるさよならパーティーを行った。福川理事長、高橋校長、梅津先生等の挨拶の後、日独生徒によるアトラクション等で大いに盛り上がり、別れを惜しむと同時に再会を誓い合った。
- *8月9日
ファミリーデーとして交流を深めた。
- *8月10日
朝、日暮里から成田空港へ向かい、涙の別れを惜しみ、再会を誓い合った。

今年の受入は、ドイツの夏休みの関係で、従来の8月上中旬実施から7月21日から8月10日までの早めの来日となったため、日本の大学生の試験時期と重なる等で、受け入れ態勢に若干苦慮したが、国際交流事業部会員始め多くの方の協力で、例年にも増して充実したものになった。関係者の皆様に感謝したい。今後も交換交流プログラムを末永く発展させて行きたいと思う。

平成17年度 海外交流事業参加者

英国語学研修派遣団 (21名)				○リーダー
				(出身中学校)
竹田 京平	男	小山台高全1	大田区立大森第六中	
三枚橋彩花	女	〃 全1	葛飾区立双葉中	
森 みずき	女	〃 全1	大田区立御園中	
清水 彩那	女	〃 全1	葛飾区立中川中	
江里口瑛子	女	〃 全1	品川区立大崎中	
藤田 万里	女	〃 全1	目黒区立第九中	
保田めぐみ	女	〃 全1	大田区立東調布中	
山本 遼	男	〃 全1	大田区立志茂田中	
山田健太郎	男	〃 全1	大田区立蓮沼中	
山崎世里子	女	〃 全2	文京区立第三中	
佐々木友里恵	女	〃 全2	目黒区立東山中	
小泉 千江	女	〃 全2	世田谷区立芦花中	
矢尾板 恵	女	〃 全2	大田区立御園中	
鳥山康太郎	男	〃 全2	品川区立八潮南中	
児玉 鮎美	女	〃 全2	品川区立東海中	
青木 満	男	昭和大学2	大田区立大森第七中	
倉又 式子	女	日本大学2	港区立高松中	
岡田 詩野	女	中央大学2	港区立青山中	
齋藤 知子	女	千葉工業大学3	江東区立深川第三中	
野中 祐哉	男	明治学院大学1	大田区立矢口中	
○長田あゆ香	女	駒沢大学3	大田区立大森第四中	

英国ブリッドポート交換留学派遣団 (7名)				○リーダー
				(出身中学校)
荒牧 芽生	女	小山台高全1	大田区立蒲田中	
今田 憶人	男	〃 全1	北区立桜田中	
武田 阿弓	女	〃 全1	品川区立伊藤中	
道明 祥江	女	東京理科大学1	目黒区立第九中	
濱田 美帆	女	亜細亜大学3	大田区立東蒲中	
荒牧 咲貴	女	上智大学1	大田区立蒲田中	
○鈴木 貴子	女	東京学芸大学3	世田谷区立奥沢中	

英国ミドルスブロウ交換留学派遣団 (7名)				○リーダー
				(出身中学校)
須藤 景大	男	小山台高全1	品川区立戸越台中	
西山 佳那	女	〃 全1	大田区立蒲田中	
原 辰也	男	〃 全2	目黒区立第三中	
渡辺 宏美	女	〃 全2	板橋区立赤塚第二中	
小笠原知美	女	〃 定4	青森県立百石中	
山口あゆみ	女	日本女子大学2	大田区立田園調布中	
○橋爪 淳吾	男	独協大学4	大田区立蓮沼中	

ドイツ青少年国際交流推進派遣団 (7名)				○団長
○河辺 清司	団長	財団法人小山台社会教育事業副部会長		
島田 博美	団員	都立小山台高校教諭 (公民科)		
佐藤 克美	〃	都立小山台高校教諭 (養護科)		
山田 孝	〃	品川区立荏原第一中学校教諭 (数学科)		
工藤 長男	〃	大田区立大森第六中学校校長		
鈴木 幸恵	〃	世田谷区立瀬田中学校教諭 (英語科)		
松本 功次	事務長	財団法人小山台事務局次長		



ドイツ国受入 (宮島)

ドイツ交換留学受入学生・受入家庭 (10名) ○はリーダー		
(受入学生)	(受入家庭)	
Hoberg Riena	近藤亜沙美	(16年ドイツ派遣)
Kimura Minako	石川結梨奈	(〃)
Blattner Laura	田邊 麻未	(〃)
Rodrigues Rui	吉田 則朗	(〃)
Matsumoto Alexander	伊藤 太郎	(〃)
Spiegel Torsten	斎藤 太一	(〃)
Kohl Isabella	池田 詩織	(〃)
Blecken Laura	石井麻奈美	(〃)
Ziegler Sebastian	清水 宏展	(〃)
○Hideg Andrea	村岡美代子	(〃)

ドイツ高校生1名が小山台高校2年に短期留学

交換留学提携校のベルリンのカニジウス校からの受入女子生徒 Blecken Lauraさんが、引続き9月から12月上旬までの約3ヵ月間、そのまま石井さん宅のご好意でホームステイしながら、小山台高校2年生に短期留学して、国際親善に寄与しています。

編集後記

当財団の英国派遣3チーム出発の直前に、ロンドンで2度のテロが発生した。地方でのホームステイの前後に、ロンドンで4泊の滞在を予定していたが、対応策を慎重に検討した結果、ロンドン市内に立ち寄らない、公共のバスや列車の利用は避ける、個人の自由行動を禁止する等、プログラムの内容を変更して実施した。大切な子供たちをお預かりしている財団として、グローバル社会の中での危機管理の大切さと、自己責任の教育の大切さを改めて痛感させられた。

一方、当財団の事業が本格的にスタートして13年目に入った。その間前後2回の機構改革等で、組織や事業の見直しを行って来たが、今年の3月に「将来ビジョンを考えるプロジェクト委員会」を設置して、5年先程度を見通した中期的な展望の中で、当財団の性格・事業構成・組織等がどうあるべきか、白紙で再検討し、結論を得たもののうち可能なものは来期の事業計画・予算に反映させる方向で、精力的に作業を進めている。

(理事・事務局長 岸本博道)